第 3 号 / 2023年度

2024年3月29日　通巻689号

# VERA

Tokyo Woman's Christian University

SPECIAL FEATURE

## 東京女子大学卒業式 学長告辞

―ファスト教養の流行る時代に―

学長 森本 あんり

東京女子大学

東京女子大学を
卒業する
みなさんへ

# 東京女子大学卒業式 学長告辞

## ―ファスト教養の流行る時代に―

学長
**森本 あんり**
MORIMOTO Anri

卒業生のみなさん、おめでとうございます。みなさんの多くが入学した2020年は、実にたいへんな年でした。授業は慣れないオンラインに変わり、自宅待機となったまま、入学した実感をもてずに月日ばかりが過ぎていった、という人もあったことでしょう。誰も経験したことのない、困難な日々でした。それだけに、今日こうして無事この日を迎えられたことに、深い感慨をお持ちだろうと思います。

ちょうどその頃、公開された映画があります。『花束みたいな恋をした』という題の映画です。菅田将暉と有村架純という二人の人気俳優が出演しているので、ご存じの方も多いでしょう。文学や音楽など、共通の趣味がきっかけで交際するようになった二人の大学生が、成長と変貌を遂げながら、やがて別々の道を歩むことになる。その終わりが、2020年という設定になっています。5年という二人の年月を描いた、少し切ない恋の物語です。

## 卒業してから深まる教養

あの映画には、最近「ファスト教養」と呼ばれるようになった風潮が映し取られています。昨今では、誰もが教養の大切さを知っている。だが、教養を学ぶには時間がかかる。それを手っ取り早く吸収しようとするのが「ファスト教養」です。本屋に行きますと、『5分でわかる何々』『あらすじで読む古典』といった題の本がたくさん並んでいます。時間やコストをかけずに、

簡単に教養を手に入れたい。そう思う人が増えているからでしょう。

映画の二人は、もともと本や映画や音楽が大好きでした。しかし、卒業して生活のために働くようになった彼は、そういう時間をもてなくなってしまいます。二人が本屋に入ったとき、彼女は純文学の文芸誌を取り上げて話しかけようとしますが、彼が手にとって読んでいるのはビジネス書です。営業マンとして、どうやったら仕事で成功できるか、というハウツー本です。

リベラルアーツの学びは、大学の４年間で終わるわけではありません。むしろ、これからが勝負です。卒業してからも自分の知りたいことを楽しんで学び続けることができる。リベラルアーツは、そういう心の態度を養う学びです。教養とは、いろいろなことを知っている博識のことではありません。周囲のトレンドを敏感に取り入れることでもありません。むしろ、世間の人が何と言おうと、自分が大事だと思うことを見つけて、それを大切にすることです。たくさんの本を読み散らすことではなくて、ほんの数冊でもいい、何度読み返しても面白い、何度読んでも学び直すところがある、そういう本を見つけることです。それが、みなさんの軸をつくり、人格の芯をつくるからです。

## 「すべて真実なこと」

自分のうちに、物事の善し悪しや好き嫌いを判断する土台をもつということは、自分の周りにある常識や慣習と一致しない判断をすることもある、ということです。いたずらに波風を立てる必要はありません。でも長い人生には、どうしてもこれは譲れない、と思うことが必ずあると思います。女性としての尊厳や平等な権利を守ることも、その一つです。世の中の大勢に従っているだけでは、日本の現状を変えることはできません。

そういう時、本学が創立以来掲げてきた聖書の言葉を思い出してください。「すべて真実なこと」。この世におもねることなく、時代に流されることなく、みずから信ずるところに従って、「すべて真実なこと」を重んじる。それが、東京女子大学の誇りある卒業生の姿です。みなさんの行く手に、神の祝福と見守りをお祈りいたします。卒業、おめでとう。

### 2023年度末 現代教養学部卒業生

**卒業者数**　862名

| | | |
|---|---|---|
| **学科代表** | 国際英語学科 | **幕田 優菜** |
| | 人文学科 | **三田 陽加** |
| | 国際社会学科 | **鈴木 沙季** |
| | 心理・コミュニケーション学科 | **大津 彩** |
| | 数理科学科 | **仁平 杏奈** |

### 2023年度末 大学院修了生

**修了者数**　博士前期課程：30名
博士後期課程：2名

# 学びを終えて　学部卒業生のメッセージ

## 知的学びを深める喜び

国際英語学科 国際英語専攻

**久光 美涼** HISAMITSU Misuzu

通訳ゼミの仲間と。筆者は右から2番目

国際英語学科での学びは、私に実践的な英語運用能力を向上させる機会を与えてくれた。英語力向上のための多様な実践科目を通して、４年間でTOEICのスコアを500点以上向上させることができた。３年次からは文学や教育など関心に沿ったゼミに分かれ、私は通訳ゼミで同じ知的関心を共有する仲間と通訳学に没頭し、通訳コンテストにも出場した。目標に向かい真摯（しんし）に努力する姿勢と互いに高め合う友の素晴らしさを忘れずに、卒業後も活躍していきたい。

## “当たり前”を考える時間

人文学科 哲学専攻

**栗城 天音** KURIKI Amane

4年間共に学んだ仲間と学校周辺の洋食店での1枚。筆者は左

哲学専攻は自分の研究テーマを決めるタイミングまで余裕があり、卒業間近まで多様なテーマに触れることができる専攻だった。私は勉強が好きではないと思っていたが、哲学の学びは勉強というほど凝り固まったものではないと感じられ、進んで取り組めた。日々見過ごされがちな疑問や矛盾について自分なりに考えることで、自分自身をよく知ることができ、人生において重要な学びであった。哲学専攻で身に付けた考える力を生かして、常に自分なりの芯を持った人間でいたい。

## 文学を修める意義

人文学科 日本文学専攻

**谷本 智海** TANIMOTO Tomomi

お世話になったゼミの先生と、研究室にて

子どもの頃から大好きな文学と学術的に向き合うことの楽しさと難しさを知った。戦後日本を映し出した作品の追求を通して、事実や知識をもとにした客観的な分析が論理的な物事の考え方を養うと感じ、文学を学ぶことの意義を再確認した。専攻内の授業だけではなく、総合教養科目や他学科の授業も幅広く履修することで、社会における「文学」という文字の営みの素晴らしさと奥深さを認識することができた。

## 歴史学の幅広さ

人文学科 歴史文化専攻

**大竹 史織** OTAKE Shiori

ドイツフェスティバルにてゼミの仲間と。筆者は右から2番目

歴史文化専攻では、戦争や政治だけではなく、演劇やアイドルなどあらゆる物事を研究することができる。私は卒業論文で戦後ドイツ右翼の政治と歴史がどう影響し合っているのかについて考察し、一人で多くの文献に没頭するだけでなく、先生や全く違うテーマを研究する仲間と意見を交換しながら互いの研究を深化させる楽しさを知った。卒業後は学校を支える側に立ち、４年間で培った学びをもとに学問の発展に貢献していきたい。

## 学びを今後の人生に生かす

国際社会学科 国際関係専攻

**櫻井 友香** SAKURAI Tomoka

ゼミの先生、友人たちと。筆者は下段左

国際社会の出来事が私たちの生活と密接に関わっている点に興味を持ち、国際関係専攻へ進学を決めた。卒業論文では、ゼミの先生や友人と悩みや不安を共有しながら励み、中国の人民元の国際化の目的について、米中の対外金融支援の比較などを通じて分析を行った。卒業論文の執筆の過程で学んだ「調べ、検討し、考察する」という繰り返しは、今後の人生の中で直面する問題を解決する際にも生かすことができると思う。

## 大学での学びを生かして

国際社会学科 経済学専攻

**田中 佐季** TANAKA Saki

ゼミのご飯会。筆者は1番左下

高校生の時からSDGsのターゲットの１つである食品ロス問題に関心があり、SDGs問題を広く、深く掘り下げて学べる経済学を専攻した。ゼミでは議論する機会が多くあり、自分とは異なる意見を受け入れることや物事を多角的に捉えることの大切さを感じた。卒業論文では食品ロス削減のため、今後の日本がどのような取り組みを行うべきかを考察した。卒業後は地方公共団体に就職するので、大学で学んできたことを実践していきたい。

## 4年間を振り返って

国際社会学科 社会学専攻

**髙橋 なつみ** TAKAHASHI Natsumi

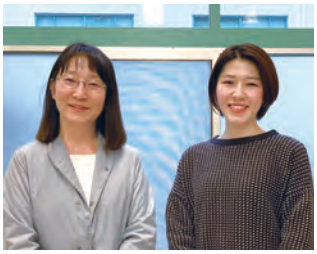
温かいご指導を頂いた先生と

コロナ禍のオンライン授業を経験し、同じ教室で友人と共に学べる喜びを実感した。特にゼミで行う意見交換の中には新たな発見があり、刺激し合いながら学びを深められる貴重な時間だった。卒業論文では、「エシカルファッション」をめぐる生産と消費に関する問題の調査および消費行動の分析を行い、積み上げた知識をつなげて考えることの面白さを知ることができた。4年間で培ったスキルを活用し、今後も学ぶことを楽しんでいきたい。

## 憧れの観光を学ぶ

国際社会学科 コミュニティ構想専攻

**田山 陽香** TAYAMA Haruka



たくさん成長の機会を与えてくださったゼミの矢ケ崎先生と

かねてより観光学に興味があり、2年次からコミュニティ構想専攻に移り学ぶこととなった。ゼミにはSNS、離島、インバウンドなど、同じ観光でも友人たちの関心は多種多様で、いつも新鮮な発見があった。学ばなければ知らなかった土地や人との出会いに刺激を受けた濃密な4年間は、周囲の支えがあってこその貴重な経験である。卒業後、私は観光業界に身を置く。目まぐるしい日々の中でも学びの楽しさを忘れずに、自己研鑽（けんさん）に努めていきたい。

## 包み込んでくれる場所

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻

**長内 来夏** OSANAI Konatsu

会社退職を後押ししてくれた友人と。筆者は右

公認心理師資格取得のために会社員を辞め、本学に編入学した。マイノリティな存在である私を、先生方や同級生が優しく包み込んでくれた。温かな環境でのびのび過ごしたおかげで、たくさんの挑戦をすることができた。特に、編入時から続けていた小学校での心理支援ボランティアや学会への参加は、今後の人生を支える糧となった。卒業後は本学大学院へ進学する。今度は自分が、誰かを包み込むことができる存在になれるよう、より一層頑張りたい。

## 社会で生きる学びと経験

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻

**清水 美結** SHIMIZU Miyu

卒論執筆に励んだ4年ゼミの教室で

本専攻では主に統計分析を学び、卒業論文では浮かんだ疑問に対して自ら調査票を作成し、調査・インタビューをすることで疑問の解決に励んだ。また、1年半に及ぶ卒論の共同執筆を通して、他者と折り合いを付けながら1つのものを作り上げる経験をした。この経験を通して、卒業後も大いに生かせるだろう問題解決力と協調性が身に付いた。大学で培ったこうした能力と、取得した社会調査士の資格を生かし、社会に貢献するビジネスパーソンになりたい。

## 数学と歩んだ4年間

数理科学科 数学専攻

**仁平 杏奈** NIHEI Anna

吉荒ゼミの仲間たちと。筆者は左端

数学をより深く学びたいと思い、数学専攻を選択した。3年次から所属したゼミでは、少人数制の授業だからこそ得られるリラックスした雰囲気の中で全員が積極的に意見を出し合い、群論についての学びを深めることができた。また、勉強や将来について親身に相談に乗っていただき、そしてご助言をくださった吉荒先生をはじめ教職員の方々や、4年間共に切磋琢磨（せっさたくま）した同じ専攻の仲間との出会いに深く感謝している。この貴重なご縁を大切に大学院でも精進していきたい。

## 学んだことを生かして

数理科学科 情報理学専攻

**泉 絢菜** IZUMI Ayana

小舘ゼミの仲間と、筆者は前列中央

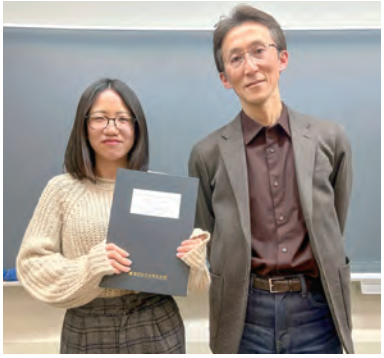
シミュレーションやプログラミングなどの情報科学だけでなく、数学、自然科学など、さまざまな分野を横断的に学んだ。ゼミでは物体認識や顔認証について学び、出席確認システムの実装をした。理想形に近づけるため、教授や仲間に助けてもらいながら試行錯誤を重ねた。学び合うことの大切さを知り、課題解決に向けて柔軟に対応する力が身に付いたと思う。本学で得られた学びを生かし、今後は数学の教員としてさらに成長していきたい。

# 学びを終えて　大学院修了生のメッセージ

## 恵まれた環境に感謝を

理学研究科 数学専攻 博士前期課程（応用数理学分野）
**藤田 ひかる** FUJITA Hikaru

大学院生として過ごした2年間は充実した期間であったように感じる。私は金融問題を考える際に用いられる確率微分方程式について研究し、さらに自ら考え出した確率微分方程式の性質に関しても考察した。その際、苦難にも直面しながらも結論が分からない問いへ立ち向かうことの大切さを学ぶことができ、良い機会となった。また、近年はいろいろな事情によって十分な学ぶ環境を得られない方々が多くいる中、6年間学び続けられた私は恵まれていたと感じる。このような恵まれた環境を与えてくださった指導教員の竹内敦司先生をはじめ周囲の皆さまにこの場を借りて感謝を述べたい。そして、本学での学びで得られたものを生かしながら社会で活躍していきたい。


お世話になった竹内敦司先生と

## 気遣い・配慮への感謝を込めて

人間科学研究科 生涯人間科学専攻 博士後期課程（生涯発達臨床領域）
**西野 将史** NISHINO Masafumi

この3年間を振り返ってみると、喜びや手ごたえ、悔しさ、苦々しさ、そして感謝というさまざまな気持ちが浮かび上がってくる。博士後期課程進学のために上京した私にとっては、コロナ禍での一人暮らしや研究と仕事の両立など、じっくりと吟味することなく駆け抜けてきた日々だった。他にも、男性の学生の受け入れは専攻で初めてだったと聞いている。私を受け入れていただくに当たり、指導教員の田中健夫先生をはじめ教職員の皆さまはもちろんのこと、臨床心理学分野の博士前期課程の修了生ならびに在学生の皆さまにはさまざまな気遣いや配慮をしていただいたことと想像している。この場を借りて改めて、感謝を申し上げたい。博士論文では私が心理臨床家として駆け出しの頃に実践した経験を学問的に理論化・体系化した。博士論文を通して、私が心理臨床家として大切にしていきたい信念、価値観である「思いやりのある社会（caring society）」に寄与できる臨床実践と研究を今後も続けていきたい。

## 博士後期課程修了者―博士論文

人間科学研究科 生涯人間科学専攻（生涯発達臨床領域）2023年度末修了
**西野 将史**

保育現場におけるタビストック方式乳幼児観察の応用に関する研究：子ども理解のリフレクションを中心として

# 2023年度 各賞受賞

## ◎光明照子賞

**国際英語学科**

国際英語専攻　**須田 華子**

**人文学科**

哲学専攻　**高 実由奈**
日本文学専攻　**青木 成美**
歴史文化専攻　**森 美野**

**国際社会学科**

国際関係専攻　**川又 響**
経済学専攻　**永井 悠佳**
社会学専攻　**遠藤 あゆみ**
コミュニティ構想専攻　**横田 成美**

**心理・コミュニケーション学科**

心理学専攻　**堀江 結衣**
コミュニケーション専攻　**宮本 珠里**

**数理科学科**

数学専攻　**小林 瑞希**
情報理学専攻　**小松 羽舞**

## ◎松村緑賞

論文賞

**矢野 真実**　人文学科 日本文学専攻
『赤毛のアン』研究―翻訳が行う文化の伝導、村岡花子を中心に―

## ◎比較文化研究所賞

**石原 頌子**　国際英語学科 国際英語専攻
A Study of Emily Brontë's *Wuthering Heights*: Focusing on Yoshishige Yoshida's Film Adaptation, *Arashi-ga-Oka*

**髙橋 凜々花**　人文学科 哲学専攻
「推す」とはどういうことか

**呉 心怡**　人文学科 日本文学専攻
坂元裕二研究
―ドラマ・映画における女性像と男女関係の描き方に関する考察―

**菅村 有沙**　人文学科 歴史文化専攻
イギリス宗教改革期の王政評価―「Bloody Mary」への評価の変遷―

**金 由那**　国際社会学科 国際関係専攻
人身事故に関する日韓比較
―ホームドア設置と免許取得時間による―

**友常 純**　国際社会学科 社会学専攻
移民ネットワークとライフコース
―フィリピン人介護労働者のもつ「つて」とその影響―

**和田 有加**　心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻
アイドルの歌詞分析
―日韓アイドルの歌詞からみる文化・国民性の違い―

## ◎女性学研究所賞

**田中 里織**　国際英語学科 国際英語専攻
A Study of *A Lost Lady*: Mrs. Forrester Seen from Different Perspectives and Willa Cather's Intention

**山根 理紗子**　人文学科 哲学専攻
現象学の視点で考察する母性と父性

**安田 桃佳**　人文学科 歴史文化専攻
大正・昭和期の農家における女性労働―当事者の意識に着目して―

**馬場 ひかり**　国際社会学科 国際関係専攻
日韓の女子大学について―女子大学の教育目的と存在意義―

**浜口 実歩**　国際社会学科 経済学専攻
女性の職務満足に関する一考察
―女性のキャリア自律の促進要因及び転職意向との関係性―

**西嶋 莉菜**　国際社会学科 社会学専攻
男装文化とジェンダー

**風間 はるな・鶴見 知世・横田 侑香**
心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻
女子大生と生理の貧困

学長賞

**嵯峨 万琴**　心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 4年
日本トライアスロン連合のエイジNCS（スプリントランキング）女子20-24歳の部優勝といった課外活動の業績が認められ、2023年度学長賞を授与されました。

TWCU OG TALK ✦ 卒業生インタビュー ✦ Vol.12

卒業後も学び続け、 仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、
ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、
そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

日本語教師
**横堀 ひかる**さん
YOKOBORI Hikaru
2018年東京女子大学大学院 博士前期課程 人間科学研究科
人間文化科学専攻(現代日本語・日本語教育分野)修了。松尾ゼミ。
修了後、タイ・チェンマイ大学 人文学部 東洋言語学科 日本語科にて
専任講師として活動。2023年からは都内の日本語学校のオンライン授業を担当。

# 学びを通して出会う新しい世界の見方

海外で活躍できる日本語教師を目指し、東京女子大学大学院に入学しました。修士課程修了後はタイのチェンマイ大学で5年間日本語科の専任講師として働き、現在は日本語学校でオンライン授業を担当しています。

東京女子大学では日本語教師の活動において「日本語」「教える」「学ぶ」など、私がそれまで当たり前だと疑っていなかったことに批判的になりじっくり向き合う時間を持つことができたと思っています。私は大学院生時代、VECという地域の日本語教室に携わったことがあり、そこでの経験が私の日本語教育に対するイメージを変えてくれました。日本語教育と聞くと学びの対象は「日本語」というイメージがあるかもしれませんが、VECは「日本語を学ぶ場」としてだけでなく、異なる考えや価値観を共有できる場で、日本語が母語である私にとっても人として成長できる場でした。VECは対話を通して相手の考えや価値観を知ることができるような活動にデザインされているので、母語や出身地に関係なく参加者全員が学び手になり、参加者一人ひとりが他の誰かの学びのリソースとなることができます。このような日本語活動での「学びの体験」を、大学や語学学校での日本語教育に携わる上でも生かしたいと思い取り組んでいます。日本語教師の仕事は目の前にいる学習者に日本語の知識や情報を伝えることだけでなく、一緒に学んでいくことのできる仕事だと思います。さまざまなバックグラウンドを持つ人との関わりを通して、考えや価値観など多様なな世界の見方に出会うことができる面白い仕事だと思います。授業で扱った語彙(ごい)や文型を使って学習者が考えていることを伝えてくれたとき、私もその学習者の世界を見ることができた気がしてうれしくなります。

知識や情報を蓄えるだけでなく、他者との関わりを通して自分の理解が変化していくことを「学び」と考える学習観があります。コロナ禍を経た今、在学中の皆さんの中には、人と関わり話すことに怖さや不安な感情を持っている方もいるかもしれませんが、私はぜひいろいろな方と話す時間を大切にし、楽しんでほしいなと思います。その中で自分とは異なる考えや価値観に出会うこともあるかもしれませんが、そんなときは自分が変化することを恐れず、その違いを楽しんでみてほしいです。

実は私も今年の夏から国際交流基金の海外派遣プロジェクトへの参加という新しいチャレンジに挑む予定です。チェンマイ大学でさまざまな職務に関わる中で、より広い視野を持ち俯瞰して自分の実践を捉えられる日本語教師になりたいと思うようになり、新しい環境に進むことを決めました。初めてのことで不安な気持ちもありますが、日本語教師としてさらに成長できる良い機会にしたいと思っています。

チェンマイ大学での最後の授業

学生記者担当ページ

# 就職内定者 INTERVIEW

1年次の学生記者が、就職活動の素朴な疑問について内定者の先輩たちにインタビューします。

学生記者
人文学科 日本文学専攻 1年
川口 菜々香 KAWAGUCHI Nanaka
人文学科 哲学専攻 1年
松島 蓉子 MATSUSHIMA Yoko

内定者

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 4年
**吉田 千紘さん** YOSHIDA Chihiro
**NHK 記者職に内定**

人文学科 歴史文化専攻 4年
**関口 佳子さん** SEKIGUCHI Kako
**東京都庁に内定**

**記者**　おふたりがこの職業を目指されたきっかけは何ですか？

**吉田さん**　私は宮城県出身なのですが、東日本大震災の翌日にもかかわらず新聞を発行した地元の記者の姿に憧れたのがきっかけでした。私も同じように地元に対して真摯に向き合う記者になりたいと思い、仙台の地域職員の採用に応募しました。

**関口さん**　高校の先生に勧められたのがきっかけです。公務員は扱う業務がさまざまであると知り、私が関心を持つ幅広い分野の仕事ができるのではと考えました。そして情報収集をしていくうちにその魅力に惹(ひ)かれ、本格的に勉強を始めました。

**記者**　就職活動のスケジュールを教えてください。

**吉田さん**　3年次の4月にキャリア・センターの就活ゼミに参加しました。マスコミ業界は比較的選考時期が早いことと、私の場合は早期選考が多かったことから、翌年の1月から2月には志望する各社にエントリーシートを送り、2月半ばからは企業の試験・面接対策に集中していました。

**関口さん**　3年次の5月から公務員試験の勉強を始めました。民間企業も併願していたので、3年次の夏にインターンシップに行き、キャリア・センターの就活イベントにもいくつか参加しました。

**記者**　選考対策として取り組んだことを詳しく教えてください。

**関口さん**　私が受験した市役所は、民間企業の選考でも取り入れられているSPIのような試験で受験できました。一方で、県庁や都庁では多くの科目の勉強が必要でした。教養科目は現代文・英文・数学・理科4科目・社会3科目、専門科目は法律・憲法・民放・行政法・マクロ経済などがあります。1000-1500字程の小論文も必要です。

**吉田さん**　私もSPIを勉強していました。マスコミ業界は他にも作文試験が課される会社が多かったため、本やインターネットで昨年度のお題を調べ、自分で書いたものをキャリア・センターの方に添削していただくことで対策していました。

**記者**　大変だったのはどんなことでしょうか？

**吉田さん**　同じ業界を目指す人が周りにいなかったので情報共有ができず苦労しましたが、インターンで顔馴染みになった人と情報交換をするようにしました。

**関口さん**　3年次の2月・3月は、試験勉強も追い込み期間でありながら企業の面接も続き辛くなったこともありました。その際は、友人との会話を大切にしていました。私の場合は、友人と就職活動の大変さを分かち合うこと、他愛もない話をすることで、ストレスが溜まりにくかったのだと思います。

**記者**　就職活動を控える学生に向けてメッセージをお願いします。

**吉田さん**　サークルでもバイトでも、まずは興味を持ったことに全力で打ち込んでみてください。それが就職活動に生きることもあります！

**関口さん**　同じく、1・2年次は就職活動に捉われず、さまざまなことに取り組み大学生活を楽しんでほしいです。どのような企業でも躊躇(ちゅうちょ)せず、気になった企業には日程が許す限り全部挑戦してみてください。そうすれば悔いなく就職活動を終えることができると思います。応援しています！

**編集後記**

自分の興味と経験とを結びつけ就職という形にする難しさと、それを手に入れた輝かしいお2人の姿は、今後の道しるべになりました。（川口）

学生記者は初めての経験で、かつ就職活動についての知識もない状態での取材でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。（松島）

おふたりとも貴重なお話をありがとうございました！
（上段左から川口さんと松島さん、下段左から関口さんと吉田さん）

ゼミの小窓

第 11 回

# 共生社会へ向けて
## ―ダイバーシティとインクルージョンの両立―

**コミュニケーション専攻 福島ゼミ**

グローバル化や情報化に伴い、私たちは世界中のさまざまな人々と関わりを持てるようになりました。そして、これまで必ずしも十分に関わりを持ててこなかった多様な心身の特徴を持つ人々（LGBTQ＋や障がいを持つ方々など）の声にもアクセスできるようになってきました。

しかし「類は友を呼ぶ」という諺もあるように、実際には私たちが関わりを持つ他者は自分と似た同質な相手であることが多く（「同類結合」と呼ばれます）、異質な人々の間では逆に分断が進んでいることが示唆されています。世界各地で多くの紛争や移民排除がみられるとともに、身近な友人との間の些細な対立、さらにはオンライン空間上でもネット叩きや炎上も日常的にみられるように、価値観が似た人たちが集まると、そこから外れた異質な人を排除する力が働きます。

ゼミのコンセプト

このような中で、多様な特徴を持つ人たちが排除されずに適度な（※人によって異なる）関係を持ち、一人ひとりが自分らしく生きられる社会のあり方を探求することが、ゼミのテーマの大きな柱となっています。この他にも学生自身が関心を持つテーマを持ち寄り合って、毎年ゼミのテーマが形作られています。

### 共生社会×リベラルアーツ教育

グローバル化や情報化に伴う変化が激しい現代でより一層求められるのが、既存の当たり前から解放された視野の広さ・思考の深さです。そのような力を養うためには、海外留学をはじめとした特別な学びが必要であると思われるかもしれません。しかし、より大事なのは皆さんが日常で関わる身近な一人ひとりが多様な性格や価値観を持ち、自分にとっての「当たり前」は誰一人として同じではないことを肌身で感じることです。

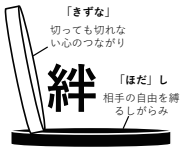
そして、そのような当たり前から解放される学びとして、東京女子大学が中心に据えているのがリベラルアーツ教育です。個別の学問にとらわれずに学問領域間を自由に横断することで、既存の当たり前、さらには自分自身の当たり前から解放された視野の広さ・思考の深さを養うことができます。

皆さんも、東女で自分らしくありながらも自分自身を変え続けていく「挑戦する知性」（創立100周年を迎えるに当たり東女が定めた基本コンセプト）を備えた地球市民になりませんか？

**入門コンテンツ**

『信頼の構造：こころと社会の進化ゲーム』
（東京大学出版会、1998年）
山岸 俊男 著

信頼は、相手との切っても切れない「絆」となる一方で、私たちの自由を制約する「絆し」ともなり得ます。皆さんは、周りの人を信頼していますか？ それとも、周りのみんなが信頼される行動をとらざるを得ない環境に“安心”していますか？ これらの相違、実はとても大切です。



FUKUSHIMA Shintaro

**福島 慎太郎**
心理コミュニケーション学科
コミュニケーション専攻
准教授

1984年生まれ、埼玉県出身。京都大学大学院修了、博士（地球環境学）。京都大学こころの未来研究センター研究員、青山学院大学総合文化政策学部助教等を経て、現職。

# 第38回「女性史青山なを賞」受賞作決定

女性史研究に先駆的業績を残された故青山なを氏のご遺贈による基金にもとづき、
東京女子大学女性学研究所より1986年に創設された「女性史青山なを賞」。
38回目となる今回は1作品に決定いたしました。

講評執筆者
第38回「女性史青山なを賞」学外専攻委員／
大阪公立大学 名誉教授
**田間 泰子** TAMA Yasuko

受賞作

**水戸部 由枝 著**
**『近代ドイツ史にみるセクシュアリティと政治―性道徳をめぐる葛藤と挑戦』**
（昭和堂 2022年12月）

「セクシュアリティは生きていくうえでとても大切なもの。なのに、家庭でも学校でも語られず、社会でも議論されない。誰も教えてくれないのはいったいなぜ？」

本書は、著者の長年のこの疑問を起点として蓄積された研究の成果である。公文書をはじめとする史料の豊富な収集と精密な分析により、優れた実証性を保ちつつ、上述の現代的な問題意識を貫いて近代ドイツの女性の権利運動を読み解く渾身の作となった。

本書を紐解くと、そこに展開するのは多彩な多くの女性たちと少数の男性たちの、女性の社会的地位とセクシュアリティをめぐる論争と活動である。対象とする時代はドイツ・ヴィルヘルム時代（1890年～1914年）。今から100年以上も前のドイツで、同時期の日本と同じように参政権など多くの人権を奪われていた女性たちが、平等を求め、組織を形成し、行政に働きかけ、問題解決のために実践的な活動を行っていた。本書は、第一部でドイツ帝国とその前史、第二部でその西南部に位置するバーデン大公国に焦点を当てているのだが、まず第一部で描かれる廃娼運動や高等教育・労働における平等を求める運動、「出産ストライキ」、刑法218条堕胎罪の撤廃をめぐる論争など、女性たちの存在感に圧倒される。

本書の魅力は、第二部でさらに増す。フランスとの国境に位置するバーデン大公国は、ドイツ帝国内で「自由主義の傾向」が「もっとも強かった」という。安定した政治体制のもと、女性にいち早く高等教育の道が開かれ、女性たちが行政において専門職にも就くことができた。ルイーゼ大公妃による精力的な活動も特徴的で、バーデン政府と協調して女性たちの活動領域を拡大することに大いに寄与した。にもかかわらず、バーデン大公国にはドイツの中で最後まで公的な管理売春制度が残された。セクシュアリティに関わる社会規範が「母性を軸に形成されたジェンダー規範を根拠に」つくられ、「女性が監視・管理されるに至」ったからだと著者は指摘する（390ページ）。

これに照らして現代日本をみれば、少子化対策はあるが、セクシュアリティを人権として保障するための政策は無い。少子化対策は、国や社会、民族といった何らかの「全体」のためのものであって、人々の幸福のための欠かせない要素としてセクシュアリティを人権保障することとは異なる。本書は、はるか以前のドイツの女性たちの歴史を学びつつ、日本の過去と今を重ね合わせて考えていくことを促す、優れた女性史研究である。

## 第39回「女性史青山なを賞」2024年度候補作を公募します

女性史研究の奨励的意義および女性史に関する啓発的意義や、独創性・論理の一貫性・実証性の各要素を満たす候補作から、選考、授与されるものです。

**対　　象**　日本語で著され出版された女性史研究の単行本（著者の年齢・性別・国籍は不問。但し2023年1月1日から2023年12月末日までに公刊されたものに限る）
**副　　賞**　20万円
**締　　切**　2024年5月17日（金）16時
**発　　表**　2024年10月予定
**応募方法**　①著者名 ②書名 ③発行所 ④発行年月日 ⑤推薦者の住所・氏名・電話番号・メールアドレスをご記入のうえ、irowg@gr.twcu.ac.jpまでお送りください。
（自薦、他薦を問いません。また可能な場合は、推薦図書の御寄贈をお願いします）
**お問合せ**　irowg@gr.twcu.ac.jp
（女性学研究所内「青山なを記念基金運営委員会」）

# TOPICS

## 退職にあたって

### かけがえのない贈り物

国際英語学科 国際英語専攻 教授
**田中 美保子** TANAKA Mihoko

専任教員として20年、学部や大学院などの学生としての在籍年数を入れると約30年、善福寺キャンパスに通ったことになります。長くて短い歳月でした。母校の教壇に立つ誘いを受けたときには、定年まで務まるか何とも心もとない思いでした。書籍編集者・翻訳者・英語教師として気楽に暮らしていた私が勇気を奮って戻った母校は、新たな学びの道場となりました。旧体育館問題や大小3回の改組など、山も谷もあった20年を何とか完走できたのは、3つの出会いのおかげです。卒論で出会いライフワークとなった児童文学作家、教育者として尊敬できる本当に知性的な恩師と同僚、そして何よりも、愛すべき大勢の教え子たち。人生の羅針盤ばかりか、こんなにかけがえのない贈り物まで授けてくださった東京女子大学に、心からの感謝の気持ちでいっぱいです。

### 窓外の桜

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 教授
**橋元 良明** HASHIMOTO Yoshiaki

8号館の北向きの私の研究室からはcroSS広場の桜が見えます。私はコロナ禍が始まった2020年4月に本学に転籍してきました。本学で迎えた最初の4月、桜の周りには人影がありませんでした。翌年、パラパラと学生の姿が目に入り、4年目の4月には、学生達の賑やかな声が桜の周りを取り巻いていました。私は大学時代から、人のコミュニケーションの謎に興味を持ち、言語哲学や社会学、メディア研究など、さまざまなアプローチから謎を追い求めてきました。その答えに到達するどころか、糸口すらまだ窓の外ですが、大学を去っても探求を続けていくつもりです。私のキャンパスライフの最後の日々、文字通りあっという間でしたが西荻という素晴らしい環境に身を置き、学生達と楽しく交流しながら研究する機会を与えてくださった東京女子大学に心から感謝申し上げます。

### 私の元気を支えた「散歩」

数理科学科 数学専攻 教授
**吉荒 聡** YOSHIARA Satoshi

2003年に赴任して以来20年以上、楽しく過ごさせていただきました。それまでの散在型単純群を中心とした研究に加えて、有限体上の関数論という新たな話題でもいろいろ面白い発見ができました。結婚・子育てに伴う家事にも精力的に取り組めています。この元気を支えていたのは「散歩」でした。駒場や茗荷谷でのゼミには徒歩で往復したり、休日には善福寺から出発して西武球場経由で青梅まで40キロ以上歩いたりしたこともありました。早朝に子供の通学バスを見送った後に三鷹の西から玉川上水や千川上水を経て登校し、教卓を下ろして黒板全面を使って講義するのも楽しみでした。コロナ禍の直前から体調が悪化しましたが、対面授業では最後までこの古典的講義形式を貫けたのは幸せでした。病気治療も無事終了したので、徐々に体力回復に努め、散歩を復活したいと願っています。

## 2024年度 学年暦

2024年度現代教養学部学年暦および大学院学年暦が決まりました。本学公式サイトよりご覧ください。

学年暦・キャンパスカレンダー

## 講演会報告
## 「歴史的転換点に立つ我々と金融の新しい姿 ～新時代に求められるリーダー像～」

2023年12月13日、みずほフィナンシャルグループ特別顧問・経団連副会長の佐藤康博氏をお招きしました。講演では私たちを取り巻く3つの巨大な変化、すなわち、世界で進む分断、資本主義の持続可能性に対する疑問、科学技術イノベーションの圧倒的な進展について、さまざまなエピソードを交えながらご解説いただきました。私たちが今、正解のない新たな課題に直面し、その中で一人ひとりがどう考え、生きるべきかが問われていることに気付かせてくださいました。ご教示いただいた「リーダーの基本的な心構え」は本学学生の今後の指針になるものであり、大変貴重かつ有意義な講演会でした。

## 緊迫するガザ人道危機！緊急講演会

2023年10月に発生したガザの人道危機に際し、卒業生で開発コンサルタントの山村順子氏による連続講演会が本学学会経済学部会とキリスト教センターの共催で開催されました。第1回(11/16)では「パレスチナ人道危機の背景―イスラエル占領・軍事封鎖下で生きること」と題し、この間人々の生活と経済がいかに窒息状態に置かれてきたか明らかにされ、第2回(11/17)では「国際協力を仕事にすること―イスラエル占領下のパレスチナで想うこと」と題し、パレスチナの人々と歩み続ける決意の源泉について語られ、両日とも活発な質疑応答が展開されました。

## 「AI・データサイエンス科目」内に「早稲田大学連携科目」を開設

2024年度より、早稲田大学との学術交流協定に基づき「早稲田大学連携科目」を開設します。本科目は、早稲田大学で開講される「データ科学教育プログラム」と同じカリキュラムで構成されています。フルオンデマンドプログラムにより時間や場所を選ばず自分のペースでデータサイエンスの理論とスキル、データサイエンスを専門に結びつける力の修得を可能とするものです。

本プログラムを受講し、早稲田大学が設定する基準を満たす学生に対しては、「早稲田大学オープン認定制度」による「認定証明書」が発行されます。本取り組みにより大学の垣根を超えたデータ活用人材の育成促進に努めてまいります。

詳細は公式サイトをご覧ください。

公式サイト

## 謹弔

お悔やみを申し上げます。

**篠原 昌彦先生** 2023年10月10日ご逝去 79歳

篠原先生は、1944年愛媛県生まれ、東京大学理学部数学科を卒業、同大学院を修了して理学修士を取得された。東京大学理学部数学科助手を経て、1973年4月に東京女子大学文理学部数理学科に専任講師として赴任され、1978年助教授、1992年から教授を務め、2012年3月に定年退職された。1992・93年度と1996・97年度の2期、情報処理センター長を務め、また数理学科の主任を3期、大学院数学専攻の主任も3期、務められた。本学在職の39年のうち相当な期間を、責任も重く実際の仕事もたいへんな役職をお務めになったことになる。

※「東京女子大学紀要論集」第63号 宮地晶彦「篠原昌彦先生のご退任にあたって」より抜粋。以降の文章はこちらをご覧ください。
https://twcu.repo.nii.ac.jp/records/25157

NOTICE

## 2023年度異動

**●採用**（2023年9月1日付）

［教育職員］

| | |
|---|---|
| 劉 雪峰 | 数理科学科 情報理学専攻 教授 |
| 志田 哲之 | 女性学研究所 特任准教授 |

**●定年・定年扱退職**（2024年3月31日付）

［教育職員］

| | |
|---|---|
| 田中 美保子 | 国際英語学科 国際英語専攻 教授 |
| 上野 加代子 | 国際社会学科 社会学専攻 教授 |
| 橋元 良明 | 心理・コミュニケーション学科<br>コミュニケーション専攻 教授 |
| 吉荒 聡 | 数理科学科 数学専攻 教授 |

**●退職**（2023年8月31日付）

| | |
|---|---|
| Perry, Simon | 英語センター 嘱託講師 |

**●退職**（2024年3月31日付）

| | |
|---|---|
| 小檜山 ルイ | 国際社会学科 国際関係専攻 教授 |
| 本合 陽 | 国際英語学科 国際英語専攻 教授 |

NOTICE

## 新任理事

【理事】松浦 英基　2023/12/1～2026/11/30

REPORT

## クリスマス献金報告

皆さまからお献げ頂いたクリスマス献金は以下の団体に送金致しました。ご協力ありがとうございました。

| | |
|---|---|
| **総額** | 296,000円 |
| 送付先 | |
| 小羊学園 | 40,000円 |
| カレーズの会（アフガニスタン医療支援） | 40,000円 |
| 日本聾話学校 | 40,000円 |
| アジアキリスト教教育基金（ACEF） | 40,000円 |
| チャイルド・ファンド・ジャパン | 40,000円 |
| 能登半島地震災害義援金（日本赤十字社） | 56,000円 |
| 山岳少数民族支援団体メーコック財団 | 40,000円 |

REPORT

## ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。
ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

NOTICE

## 遺贈・相続財産によるご寄付について

**■遺贈によるご寄付について**

本学の遺贈による寄付制度はあらかじめ作成した遺言書に基づき、逝去されたときに財産の一部を本学に寄贈いただき、教育研究活動の財源として活用させていただくものです。相談窓口として、信託銀行をご紹介いたします。なお、本学にご遺贈いただいた財産に相続税は課税されません。

**■相続財産のご寄付について**

財産の相続または遺贈を受けられた方が、本学に当該財産をご寄付された場合、相続税法上の優遇措置を受けることができます。詳細は、事務局へお問い合わせください。

**問い合わせ先**

大学運営部総務課（寄付担当）　TEL：03-5382-6340

OTHERS

## 広報誌『VERA』定期購読のご案内

東京女子大学広報誌『VERA』は、学内配布の他、学部在学生の保証人の皆さま、定期購読をお申し込みくださった方にお送りしています。定期購読をご希望の場合は、下記の通りお手続きくださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**●年間購読料**

1,300円（2024年度は年3回、6月、12月、3月発行予定、送料込）

**●申し込み方法**

郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、右記口座にお振り込みください。通信欄に「広報誌購読料」と記載の上、住所、氏名、電話番号、および卒業された学科・専攻名、卒業（修了）年をご記入ください。

**送金先（ゆうちょ銀行）**

口座記号・番号：00130-5-34872
口座名義：学校法人 東京女子大学

＊申し込みは随時承っておりますが、年度 1号からご購読をご希望される場合は、2024年4月26日（金）までにお振り込みください。
＊定期購読は年度単位（4月から翌年3月まで）となっております。
年度途中にお申し込みの場合は当年度第1号からのバックナンバーもお送りいたします。
＊記事内容は東京女子大学公式サイトでも公開しています。

## 同窓会からのお知らせ

### 卒業される皆さまへ
### ご卒業おめでとうございます。

ご卒業後4月から、皆さまは同窓会の会員となられます。
同窓会には、本部の他、国内54・海外7の支部があります。
同窓会主催行事については、ホームページをご覧ください。
また、改姓・住所変更などの場合は、
ホームページの専用フォームよりお知らせください。
メールでも受け付けております。

Tel.03-3395-4448
Fax.03-3395-0084
https://www.twcu-alumnae.jp/
E-mail：office@twcuaa.jp
X（旧Twitter）：@vera_twcu
（9:00～17:00開館　日・月曜日、祝日休館）

同窓会
ホームページ

**同窓会の主な活動**

**同期の方のお集まり：卒業後10年・20年・30年・40年の会、卒業後50年お花見の会**
該当学年の皆さまには、同窓会から直接お知らせいたします。

**園遊会（Homecoming Day）**　4月29日（月・祝）

**講座・講習**　キリスト教、日本の伝統文化講座、クリスマスオーナメントづくり、臨地講座、パソコン・いけ花・英会話（定期講座）など

**観劇**　文楽（12月・2月）、歌舞伎（1月）、ミュージカル、コンサートなど

**情報の発信**　『同窓会会報』（9月・3月）年2回、『荻窪だより』年3回、メールマガジン、同窓会公式ホームページ、X（旧Twitter）

**求人情報提供**

**同窓会オリジナルグッズ販売**「クリアファイル（各種）」「VERAバッグ」「オリジナル印傳グッズ」など

**貸室**　クラス会・勉強会・コーラス・俳句会・音楽会・結婚披露宴など

表紙の場所

講堂。チャペルと一体となった東京女子大学キャンパスを代表する建物の一つです。ステージを中心に、約1,000もの座席に明るい外光が降り注いでいます。設計は著名な建築家アントニン・レーモンドによってなされ、これは初代常務理事A.K.ライシャワー博士の推薦によるものといわれています。講堂内部は日本の白木建築の良さを生かした温かい質感が印象的な空間で、竣工した1938年以降、入学式、卒業式、講演会、大学祭などさまざまな行事の会場としても使用されています。

## VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙　第4章8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

## Web アンケート

『VERA』に関するご意見、
ご要望をお寄せください。
QR コードよりご入力ください。

# VERA

第3号／2023年度

## Contents


02 SPECIAL FEATURE
東京女子大学卒業式 学長告辞
ーファスト教養の流行る時代にー
……森本 あんり

04 Students
学びを終えて 学部卒業生のメッセージ
……久光 美涼、栗城 天音、谷本 智海、大竹 史織、櫻井 友香、田中 佐季、高橋 なつみ、田山 陽香、長内 来夏、清水 美結、仁平 杏奈、泉 絢菜

06 Students
学びを終えて 大学院修了生のメッセージ
……藤田 ひかる、西野 将史
博士後期課程修了者ー博士論文／2023年度 各賞受賞

08 Career
TWCU OG TALK vol.12……横堀 ひかるさん
学生記者担当ページ 就職内定者INTERVIEW

10 Studies
ゼミの小窓 第11回……福島 慎太郎
第38回「女性史青山なを賞」受賞作決定
水戸部 由枝 著『近代ドイツ史にみるセクシュアリティと政治—性道徳をめぐる葛藤と挑戦』
……大阪公立大学 名誉教授 田間 泰子

12 TOPICS
退職にあたって
……田中 美保子、橋元 良明、吉荒 聡／
2024年度 学年暦／
講演会報告「歴史的転換点に立つ我々と金融の新しい姿〜新時代に求められるリーダー像〜」／
緊迫するガザ人道危機！緊急講演会／
「AI・データサイエンス科目」内に「早稲田大学連携科目」を開設／
謹弔

14 NEWS
2023年度異動／新任理事／
クリスマス献金報告／ご支援へのお礼／
遺贈・相続財産によるご寄付について／
広報誌『VERA』定期購読のご案内／
同窓会からのお知らせ



2024年3月29日発行
東京女子大学
発行：東京女子大学　編集：広報委員会
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1　TEL：03-5382-6476（広報課）
公式サイト